



スーパー180やスーパー200といった繊細な生地を扱わせたら、アロイジオの右に出るサルトはいないだろう。新しい素材に対する研究、途絶えてしまった地方の伝統の復活、アロイジオはつぎつぎに刺戟を提供してくれる。



ガエターノ・アロイジオ

1963年生まれ、カラブリア出身。フランス貴族やアラブ王家も顧客に抱える。美術品と腕時計の蒐集が趣味。ちなみに好きな時計師はジェラルド・ジェンタとのこと。この秋、日本に上陸をはたす。今秋よりラフィネリアにて取扱予定。TEL.03-5772-2426

GAETANO ALOISIO

最も繊細かつ洗練された服を仕立てる若きサルト

ガエターノ・アロイジオは「畏るべき子ども」だ。わたしが知るなかで、イタリアで最も若いサルトであり、そして最も繊細かつ洗練された服を仕立てる。ローマにアトリエを構えるが、いわゆるローマ風の仕立てとは一線を画す。むしろパリとの往復のなかで育まれたサルトリア・パリージの進化形と見るべきかもしれない。

チフォネリ、スマルトについてパリに進出し、マルブッフ通りにあるサロンを訪れる客は確実に増えている。新しいエレガンスを求めるものたちはみな、アロイジオに辿り着くことになるからだ。

イタリア人サルトとしては珍しく、アロイジオは顧客ひとりひとりの型紙を、それも布で作成する。生地は直接チヨークで線を引き、そして裁断することが職人技ともてはやされがちだが、アロイジオは一顧だにしない。

「だって、同じお客さまから同時に数着のオーダーがあって、それをきっちり仕上げようとすれば型紙が必要なのは当然でしょう」

そうした姿勢は細部にまで徹底される。裏地の処理、ステッチワーク、ボタンホール……どれひとつをとっても完璧を彼は求める。ガエターノ・アロイジオが、日本にどのような衝撃をもたらすことになるのか、いまから興味深い。

SARTORIALE